

一般質問の概要

令和2年第3回 二宮町議会定例会

9月16日(水) 午前9時30分～

※2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

※感染症対策のため、議員の質問時間は件数に関わらず30分です。ただし町執行部側の答弁時間を含みません。

No	質問予定議員	質問概要
1	前田 憲一郎 議員	<p>二宮町体育施設の運営・管理について (放映件名：二宮町体育施設の運営・管理について)</p> <p>二宮町には、町民の心身両面にわたる健康増進、健康寿命の延伸を目指し、また、多世代間交流等町民が触れ合う場として、神奈川県内では他の町村にない温水プールをはじめ、山西プール、運動場、体育館、武道館、ラディアンテニスコート、緑が丘テニスコートが体育施設として設置されています。しかし、残念なことに近年総体的に見て、施設の町内在住の利用者数が年々減少しています。管理人のいない武道館、2つのテニスコートは歳入が歳出を上回っていますが、業務委託をしている他の施設は、歳出が大きく超過しています。特に温水プールは施設の老朽化に伴い年々歳出が大きく超過し、令和元年度は歳出超過が5千万円をはるかに超えています。4施設での歳出超過は、総額75,293千円余りになっています。これらの体育施設は、町民にとってなくてはならない大切な施設であり、この辺りで運営、管理両面から見直しをする必要があると思います。そこで、次の要旨についてご答弁いただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 歳出超過の体育施設に対し、どのようなお考えのもと設置されているのですか。2. 各施設の利用料金、利用時間区分、利用規定を設定した時期と根拠についてお聞かせください。3. 体育施設の運営、管理について、高額な委託料を支払い業務委託していますが、委託料に見合うメリットがあるとは思えません。どのようなメリットがあるのかお聞かせください。4. 業務委託料を設計した積算根拠、契約内容についてお聞かせください。
2	二宮 節子 議員	<p>コロナ禍での高齢者への取り組み (放映件名：コロナ禍での高齢者への取り組み)</p> <p>現段階では、2050年には、高齢者の割合は、38.8%と予測され、日本の高齢化率は世界第一位である。このような高齢化社会において、高齢者の孤立化が起こってしまう可能性が以前から指摘されている。更に新型コロナウイルス感染症の影響により、コミュニケーションを取る場が、今まで以上に減少しているが、様々な取り組みをしている例がある。この件での町の取り組みと、コロナ禍における更なる町の取り組み、以下5点伺う。</p> <ol style="list-style-type: none">1 在宅の一人暮らし高齢者に対する見守り2 通いの場の再開に向けての動き3 介護認定がある転入者への訪問4 インフルエンザ予防接種補助5 介護施設・介護事業所や、障害福祉サービス等従業者への慰労金申請が終了しているかの聞き取り調査

3	露木佳代 議員 (2件)	<p>基本計画を白紙撤回した役場新庁舎整備の今後について (放映件名：基本計画を白紙撤回した役場新庁舎整備は)</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大は、人と会う、集まる、という「これまで基本としてきたこと」ができない現実を私たちに突きつけ、仕事、教育、文化、コミュニティなど、そのあり方や方法を根底から考え直すことを強いた。そして町は、役場新庁舎整備に関して、職員の働き方や、建物としての庁舎のあり方を改めて考え直す責任を負っており、どのような変化があったのかを確認したい。</p> <p>現在進行している役場新庁舎整備の状況では、ラディアン周辺に建設するという条件のみを残し、基本計画を白紙撤回して「町民によるワークショップ」を開催することとした。これは「町民の声をもっと聞け」という議会からの意見を反映したものだと言いが、確かにそのような考えで計画に反対した議員はいたとしても、否決に裏付けられた理由として議会が合意したものではなく、各議員でいえば、反対理由はそれだけではなかった。</p> <p>このような事態になっているのは、議会による事実上の二度の否決を受けてもなお、すべてを白紙撤回したくない町長に対して、何とか町民や議会を立てながらも前に進めなければならないと考える職員による苦肉の策ではないかと思われる。なぜなら、ワークショップの位置づけは町民の意見を反映するには極めて不確実であり、どのようなプロセスを経て町の決定がなされるのかも不透明だからである。ワークショップの開催方法や、町の決定プロセス、スケジュールを確認する。</p> <p>また、現庁舎の老朽化の状況について、町の対策を問う。</p> <hr/> <p>性的マイノリティに関する一般質問から1年半が経過、パートナーシップ制度導入と町民や職員への配慮についての進捗状況は (放映件名：パートナーシップ制度導入について(続))</p> <p>パートナーシップ制度導入と町民や職員への配慮についての一般質問から1年半が経過した。当時の町は「今後、パートナーシップ制度についての研究を進め、同時に、LGBTについて理解が広がり、深まるよう啓発をしてまいります」、「やはりこういう方がいらっしゃるといことは認識しておりましたので、必要性は大変感じているところです」、「すぐにでもできることはすぐにでも進めるという姿勢で取り組んでいって、その進捗状況、それによって来年度、導入ができれば、そういったことで考えていきたい、研究をしていきたいと思っております」と非常に前向きな答弁をしており「導入する方向性でいいでしょうか」という私の確認の問いに対しても「必要性はとても感じているところでありまして、導入する方向で研究を進めていきたいと考えております」としている。そして「全国20歳から59歳の個人約7万人の対象者のうち、LGBTの割合は7.6%という結果が出ています。割合からすると、二宮町の職員にもいることになり、身近な存在であることがわかります」と生きづらさを抱える職員がいる可能性に言及し、心を寄せる答弁もあった。</p> <p>議会後は1か月も経たないうちに、地域政策課の案内版にレインボーマークが表記され、その後も条例改正等のタイミングで、町民が記入する申請書や、町が町民に発行する書類関係から男女の性別欄が削除されるなど、前向きな動きもあり、パートナーシップ制度の導入も早期に実施されるだろうと期待をしていた。しかしそれがされないまま今に至ることは非常に残念である。</p> <p>1年半前にも述べているが、私は、今、町役場に「困っています」と言う人が目の前に来ていなくても、パートナーシップ制度や性的マイノリティの方々への配慮は、人権問題としてすぐにでも当たり前に取り組むべき問題だと考えている。</p> <p>制度の導入への方針は変更されたのか。性的マイノリティに関する町民と職員に対する配慮の進捗状況、現状の課題と解決策、今後の方針とスケジュールを問う。</p>
---	--------------------	--

4	松崎健 議員	<p>新型コロナ禍に対する町の対応について (放映件名：新型コロナ禍に対する町の対応について)</p> <p>新型コロナ禍対策のために、これまでに二宮町は補正予算（第1号～第4号）で総額約33億円を投じてきた。9月補正予算（第5号）では新たに約3千万円が投じられることになるが、町が策定した緊急対策の課題を指摘する声も多く、策定に際しての情報収集の在り方に改善の余地があると考え。 「窮状を訴える町民を役場で待つのではなく、役場が町民の下に出向き窮状を聞き取るべき」と、6月定例会で訴えた。経済状況の把握は商工会他、町内の団体から把握しているとの答弁であったが、例えば「にのみや飲食店応援クーポン」一つとっても、飲食店と町民の双方からその仕組みに対し問題点を指摘する声が上がっているが、その原因は情報収集の在り方に問題があるものと考え。</p> <p>また、新型コロナ禍の趨勢を考慮の上で、今後の町づくりに向き合わざるを得ない状況であることに鑑み、役場新庁舎計画や小中学校統廃合の問題は振出しに戻して検討すべきと考え。</p> <p>要旨1 6月定例会で「積極的に直に町民に会って生の声を聴くことが大切」と訴えたが前向きな答弁はなかった。その後も考え方に変わりはないか。</p> <p>要旨2 緊急対策に関する町内経済状況の把握は「町の商工会、金融機関、団体の調査結果」をもとに行っている、との答弁がある。町独自で調査は行わないのか。</p> <p>要旨3 学校休業期間中、報道等によると「子供たちは学校へ行きたがっている。」とした内容が報じられていたが、私自身は休業を歓迎している子供達ばかりに出会った。6月以降の登校開始に伴い児童生徒への心のケアも課題となっているが、ケアはどちらを前提として行っているのか。児童生徒の心にどのような問題が発生しているのか。</p> <p>要旨4 新型コロナ禍の情報収集・情報提供の拠点を終息の目途が付くまでの期間限定で駅前等の人通りが多い場所に設置することを提案するがいかか。</p> <p>要旨5 新型コロナ禍はスペイン風邪以来100年ぶりのパンデミックといわれている。今後のまちづくり（とりわけ役場新庁舎と小中学校統廃合）は、次のパンデミックが100年後に起こることを前提として策定するのか、今後は頻繁に発生することを前提にするのか。</p> <p>要旨6 新型コロナ禍の収束が見えない中で、大打撃を受けている観光業ではあるが、他の自治体では収束後を見据えて既に動き出している。必ずしも経済活性化に結びついていないという課題を有している二宮町の観光について、コロナ収束後を見据えての取り組みは。</p> <p>要旨7 新型コロナ禍を受け、東京圏が転出超過になるなど新たな動きも出ている中で、二宮町の不動産への問い合わせは増えているとも聞く。これらの動きに対する定住促進等の二宮町の対応は。</p> <p>要旨8 新型コロナ禍による自粛により、活動を停止しても何ら問題が無い活動や自粛下においても継続させなければならぬ活動が見えてきた感がある。これを期に大胆な事業見直しを敢行すべきと考えがいかか。</p>
---	-----------	--

5	小笠原 陶子 議員	<p>幼児期からの環境教育について (放映件名：幼児期からの環境教育について)</p> <p>現在、SDGs とよばれている「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が国連総会で採択され、地球全体の動きになっている。 この活動は素晴らしいが、もっとわかりやすい取り組みが求められている。</p> <p>私は幼児期から、資源の大切さや省エネ、ごみ削減などについて学ぶことが大切だと考えます。二宮町では幼児期の環境教育をどのように進めているのか、今後の方針と施策を伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを対象とした、環境教育を推進している個人や団体の情報の把握と発信が大切だが、どのように進めているか。 2. すでに環境プログラムに関する行動（活動）に取り組んでいる子どもたちに意欲がわくような、表彰制度などについてどのように考えているか。
---	--------------	--